

## 第1学年学級活動（2）指導案

日 時 令和5年10月27日（金）5校時  
児 童 1年A組 計20名  
指導者 庄子 美千子  
場 所 1年A組教室

### 1 題材 「もっと ふわふわことばをふやそう」 学級活動（2）イ よりよい人間関係の形成

#### 2 題材について

##### （1）児童の実態

本学級の児童は、素直な気持ちを持ち、明るく元気に生活しようとする児童が多い。休み時間には、校庭や多目的ホールなどで友達や上級生と楽しそうに遊ぶ姿が多く見られる。また、男女関係なく、協力し合って活動することができる子ども達である。

しかし、遊びや活動に夢中になると、相手の気持ちを考えずにきつい言い方や乱暴な言葉遣いになってしまう児童や、年上の人への言葉遣いが乱暴になってしまう児童も見られる。

そこで、児童には、相手の気持ちを考えた言葉遣いや言い方の大切さに気づかせていきたい。

児童は、教師対児童の役割演技やソーシャルスキルトレーニングを通して、気づいたことや感じたことを発言できるようになってきている。今後は、児童対児童のペアでのソーシャルスキルトレーニングも取り入れながら、より実践的な力を育てていきたい。

##### （2）題材設定の理由

本題材は、学級活動（2）「日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全」のA「基本的な生活習慣の育成」に関するものである。

子ども達は、相手の気持ちを考えた言葉遣いをするのは大切だとわかってはいるものの、感情的になった時や、ちょっとした言葉の受け取り方の違いで、相手の気持ちを悲しませトラブルになってしまう時もある。原因として、子ども達同志のコミュニケーション不足や語彙数の少なさではないかと思われる。

本題材では、現在の自分達の言葉遣いを振り返り、言葉遣いや言い方がどれだけ相手の気持ちを左右させるかに気づかせたい。さらに、「見つける」では、ふわふわ言葉を増やしていこうとする実践意欲を高めていきたい。実践方法としては、「なかよし大作戦」カードに、具体的に自分の目標を立て取り組むことや「ふわふわ言葉の木」の取り組みで、みんなともっとなかよくなりたいという意欲が高まるのではないかと考え、本題材を設定した。

#### 3 評価規準

よりよい生活を築くための 知識・技能	集団や社会の形成者としての 思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係を よりよくしようとする態度
自己の身の回りの諸課題の改善に向けて、取り組むことの意義を理解し、基本的な生活を送るための知識や行動の仕方をも身に付けている。	自己の身の回りの諸課題を知り、解決方法などについて話し合い、自分に合ったよりよい解決方法を意思決定して実践している。	自己の生活をよりよくするために、見通しをもったり振り返ったりしながら、進んで課題解決に取り組み、他者と仲よくしてよりよい人間関係を形成しようとしている。

#### 4 本時の展開

##### (1) 本時のねらい

言葉によって、自分や相手がうれしくなったり傷ついたりすることを知り、よりよい人間関係を築くために、あたたかい言葉を使っていこうとする態度を育てる。

##### (2) よりよい意志決定に向かう工夫

###### ★手立て「話し合い活動（意見共有）の工夫」

本時はまず、ちくちく言葉をどうして言うのかを考える。次に、具体的な場面を想定して、どんなふわふわ言葉を使えるのかを考えさせる。その際、ふわふわ言葉を言った時と言われた時の気持ちを考えさせ、あたたかい言葉を使った時の気持ちを交流し合う。その後、自分に合っためあてを決めていく。

「見つける」の活動では、教師対児童の役割演技やソーシャルスキルトレーニングを取り入れ、ふわふわ言葉を使った時の気持ちを考えさせたい。

###### ★手立て「資料の精選」

本時は、個々の児童が自分の問題として捉えられるようにするため、アンケートの集計を提示し、日常の言葉遣いを振り返らせる。その後、具体的な場面を提示し、場に合ったふわふわ言葉を考えさせていきたい。

##### (3) 展開

	児童の活動	指導上の留意点	◎目指す児童の姿 【観点】〈評価方法〉 ★手立て ※資料
つかむ  (7)	1 アンケート結果を見て、気づいたことを話し合う。  2 言葉遣いには、ふわふわ言葉とちくちく言葉があることを知る。  3 課題の把握  もっと ふわふわことばを ふやそう。	・事前のアンケートの結果を知らせ、いやなことを言うてしまうことに共感させる。なかよく生活することにつながる言葉遣いについての意識を高める  ・ふわふわ言葉とちくちく言葉のイメージをもとに、なかよく生活することにつながる言葉遣いについての意識を高め、課題につなげる。	◎目指す児童の姿 【観点】〈評価方法〉 ★手立て ※資料  ◎学級の言葉遣いについて気づく。 ★手立て ※アンケート結果  ◎うれしい言葉をふわふわ言葉、いやな言葉をちくちく言葉とすることを 知る。 ※イメージ図
さぐる  (13)	4 ちくちく言葉を言った時の気持ちに関心をもつ。	・ちくちく言葉を言うてしまう時の気持ちを話し合わせる。	◎ちくちく言葉を言うてしまう時の気持ちに気づく。
見つける	5 ふわふわ言葉と言われた時の気持ちに関心をもつ。	・具体的な場面を提示し、場に合ったふわふわ言葉を考えさせる。 ・言った人も言われた人もいい気持ちになることを確認する。 具体的な場面 ○縄跳びが跳べない子に	◎場に合ったふわふわ言葉をたくさん言えるように考える。  ★手立て

<p>(15)</p>	<p>6 ふわふわ言葉を増やすための作戦を話し合う。</p>	<p>○一人でいる友達に ○練習していた逆上がりができた子に ○ボール送りゲームで失敗した子に</p> <p>・課題に対する作戦を考えさせる。</p>	<p>※教師対児童やペアでのソーシャルスキルトレーニング ◎ふわふわ言葉について考えている。 【思考・判断・表現】 〈観察・発言〉</p> <p>◎ふわふわ言葉を使っていこうとする意欲をもつ。 【思考・判断・表現】 〈観察・発言〉</p>
<p>決める (10)</p>	<p>7 話し合ったことを参考にして、個人のめあてを決める。</p>	<p>・本時を振り返り、自分のめあてをもてるように助言する。 ・友達の意見を聞いて、実践意欲を高めさせる。 ・本時の振り返りをする。 ・ふわふわ言葉を言ってくれたお友達の名前を紙に書いて「ふわふわ言葉の木」に花を咲かせていく活動も紹介する。</p>	<p>◎自分の課題に合った具体的な目標を決める。 【思考・判断・表現】 〈学習カード・振り返り〉</p>

5 事後指導

<p>児童の活動</p>	<p>指導上の留意点</p>	<p>◎目指す児童の姿 【観察】〈評価方法〉</p>
<p>・自分の立てためあてや取り組みなどについて振り返る。 ・友達同士で取り組みを話し合う。</p> <p>・ふわふわ言葉を言ってくれたお友達の名前を紙に書いて「ふわふわ言葉の木」に花を咲かせていく活動に取り組む。</p>	<p>・帰りの会などを利用して友達同士で取り組みを確認しあう場を設け、お互いの頑張りを励ましあうことにより、実践への意識を高めていきたい。</p> <p>・一週間実践したことの成果を自己評価させ、自己肯定感を高めるようにする。</p>	<p>・ふわふわ言葉の大切さを理解し、自分の作戦を進んでいる。</p> <p>【主体的態度】 〈ワークシート・観察・ふわふわの木〉</p>

6 板書計画

